

大切にしたい動植物たち

植物 市内では1100種類近くの植物が記録されています。この中で千葉県でも生育のごく少ないものがかつか知られています。これらはみな環境の変化に弱いものなので大切にしていきたいものです。



センダイタイゲキ

〔トウダイグサ科〕

花期は4-5月ごろです。県内でもまれな植物で、少し湿った土地に生育します。もともとごく少ないものです。タイゲキは大戟と書き、この仲間の漢名です。



キンラン〔ラン科〕

花期は4-5月ごろです。山林の下に生えます。林の中が“やぶ”のようになっていたり、花が目立つために採られたりして、大変少なくなりました。似た種類に花の白いギンランがありますが、これもごくまれになりました。



カワラナデシコ

〔ナデシコ科〕

花期は6-9月ごろです。秋の七草として親しまれたものですが、花が美しいため採られてしまったのか近年減りました。



カタクリ〔ユリ科〕

花期は4月ごろです。もともとは北国の草ですが、県内にも少し分布します。八千代市少年自然の家の観察園には、造成されてしまったところから移して植えたものが増えて毎年花を咲かせます。



キセワタ〔シソ科〕

花期は8-9月ごろです。林のまわりなどにまれに生えています。キセワタは「着せ綿」の意味で、花の上に白い毛が生え、これを綿にたとえたものといわれています。



ヤマトミクリ〔ミクリ科〕

花期は6-8月ごろです。浅い水の中に生える多年草で、桑納と島田の境界の水路にわずかに生育しています。県内でも絶滅が心配される種です。夏には、ごつごつした球のような実をつけます。



オミナエシ

〔オミナエシ科〕

花期は8-10月ごろです。秋の七草のひとつで、市内の草地に見られましたが、ほとんどすがたを消してしまいました。

動物 近年の環境の変化によってとても少なくなったものがあります。とくに湧き水や湿地などに生息する動物は大きな影響を受けています。



キイトンボ

〔イトトンボ科〕

水草の多い浅い池や湿地を好み、イトトンボの中では体がやや太めです。オスは腹部が黄色で、メスは黄緑色です。



クサガメ〔ヌマガメ科〕

卵を産む場所の川岸などがコンクリート化されたことが、個体数の減った理由の一つと考えられます。★詳しくは裏面に載っています。



サワガニ〔サワガニ科〕

斜面林の崖のすそに湧き出す湧き水にサワガニがすんでいます。見られる場所も個体数も非常に少なくなっています。市内に生き残っているのはふしぎなくらいです。



ニホンアカガエル

〔アカガエル科〕

成体は草地や林内で生活していて、1、2月ごろになると冬眠から覚めて水の残る水田などに卵を産みます。今ではとても数が少なくなっています。★詳しくは裏面に載っています。

(写真：前田録哉)